

11月分のメッセージ.

価値感の同じ人と仕事をした。

11月6日

古田大会計の経営計画書の基本方針の5番目に「職場はプラス思考の人間育成道場とする」というのがあります。

$$\text{人生の仕事の結果} = \text{考える方} \times \text{熱意} \times \text{能力}$$

( ~100~100 ) ( 1~100 ) ( 1~100 )

人には能力があっても、熱意があっても、考える方が間違っているために、十分な仕事の成果を出さないう人がたくさんいます。多少能力があっても、熱意があっても、考える方がマイナスだと掛け算なので全てがマイナスになってしまうからです。今は能力があるのと、ながあるのと、強い熱意を持ち、プラス思考で行動すれば、人生の結果は必ずよい結果になります。またジャック・ウエルズの

	A	B	C	D
能力	○	×	○	×
考える方	○	○	×	×

- A. 会社のためには是非とも協力して下さい。
- B. 能力の無いとは気にするな、良い上司をつけよう。
- C. すぐに辞めて下さい。借金してでも退職金を払います。
- D. ゆっくり辞めて下さい。

という言葉もあります。

中小企業を経営していて一番困るのは、能力と熱意はあっても考える方の違う人間です。その人が会社の役員とか幹部であることが多いからです。一般の社員であるなら、困った社員がいてもいつかは辞めてゆくのだから問題はないのですが、会社の幹部である場合には、経営者の心の中がいつまでも悩みが離れることはありません。結論としては、腐ったレモンは回りまわって腐らせてしまうので、すぐに辞めてもよいのがよいのです。しかし、仕事ができるので、経営者はなかなか決断できないのが現実だと思います。彼は何故自分の考えを変えようとしていないのでしょうか。会社という組織の中で自分以外のものが見えないのでしょうか。仕事における考える方の違いは、価値感の違いによるものだと思います。価値感の同じ人間と仕事をすると仕事が楽しく、困難なときにもチャレンジしようという勇気が湧いてきますが、価値感の違う人間と仕事をすると、不安と心配ばかりで精神的にまいってしまいます。経営者にとって頭から離れない悩みの種です。人は価値感が変わると大きく成長します。社員、幹部が成長するときには、態度、顔色が変わり、何よりも素直になります。人財とは、価値感の同じ人間と定義してもよいのではないのでしょうか。

今月の添付資料として、(株)ワイキコープの安田社長の「仕事の出来ないう経営者」という記事を紹介いたします。経営者なうは「なるほど」と思っていた方がいいはずですが、仕事が出来ないう経営者は、実は自分は仕事が出来ると思っ込んでいることが原因がという発見です。面白い記事です。人を教育するのは自分を合わせて大変です。しかし、くじけることなく、教育は継続的ではなく、繰り返しです。自分を磨き、理想の会社を創り上げましょう。古田大